

令和6年度福島県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例
(福島県自転車条例) 推進会議 参加者からの主な意見

令和6年6月14日 生活交通課

○施策1-1 学校における交通安全教育

(福島県サイクリング協会)

- ・ 平工業高校に勤務しているが、平工業高校では自転車通学の生徒にヘルメット着用を4月1日から校則化している。
- ・ 全校生徒のうち約7割の生徒が自転車で通学しており、着用率は良いと認識している。
- ・ ただ、校門から入ってくる時はヘルメットを被っているが、駅に様子を見に行くと、ヘルメットをぶら下げている生徒を見かける。
- ・ 教育庁等と連携して、各学校の管理職の先生方を中心に、自転車通学の生徒に対しヘルメットの着用を校則化することが良いと考えている。
- ・ 校則化となると、学校の内規を変える等、結構手間がかかる。ただ、手間を惜しんでいたのでは推進が難しいので検討材料にしていきたい。
- ・ 生徒からはヘルメットは価格が高い、という話が出てくる。
- ・ 隣町から来ている生徒たちは行政からヘルメットを購入する補助金が出ているようだ。
- ・ そのような制度の周知も着用率を上げる一つの手だてになるのではないかと。

(福島県教育庁健康教育課)

- ・ 今年度、ヘルメット着用の校則及び着用義務について、各県立高校にアンケートを取ったところ、校則として定めているのが、県立高等学校80校のうち、6校あった。
- ・ また、校則にはないが着用義務を求めている高校が4校であり、少しずつ制度化する学校が増えてきている。

(福島県高等学校PTA連合会)

- ・ 先日PTAの東北地区全体の総会と、各委員会があり、ヘルメット着用の話題になった。
- ・ 昨年度、加盟校の生徒の自転車保険の加入状況とヘルメットの着用状況についてのアンケート調査をし、その結果を踏まえて、今年どうするか検討した。
- ・ 努力義務なのに、義務にするというところで、保護者の方が反対もしくは難色を示している場合があるという。
- ・ また、努力義務なのに、校則化して自転車に乗せない権利はないだろうという保護者の意見もあるようだ。
- ・ もう一つネックになっているのが、ヘルメットの保管場所。保管場所として自転車のか

ごに入れておくパターンもあるが、盗まれたら嫌だということで教室に持ってきて、今度は保管場所がない。施設・設備の整備も必要ではないか。

- ・ P T Aの役員の方々は、着用率は上げるべきだということで、今年度の取組としては、何がネックになっているのかを調査して、その上でP T Aとして、保護者への呼びかけや取組をどうしていくべきかを考えるということになった。

(福島県交通安全協会)

- ・ 私たちの協会ではT Sマークの自転車保険を取り扱っている。
- ・ T Sマークは、緑色・赤色・青色の3種類あるが、種類により補償の内容は全く異なり、そのなかでも緑色のT Sマークは、全ての人身事故が対象となり補償限度額は1億円となるほか、示談交渉サービスも付いている。
- ・ また、T Sマークは保険だけでなく、試験を受けて認定された自転車安全整備士が自転車の安全点検の確認をした上で、T Sマーク（緑色、赤色、青色）のステッカーを貼るものである。
- ・ 学校においては、自転車通学の生徒は自転車店で必ず点検・整備を受けてくるよう用紙を渡され記入して提出していると聞く。
インターネットで検索して、料金の安い保険に加入することもできるが、それはあくまでも保険の値段だけであって、自転車の点検整備を受けずにブレーキの効かない自転車に乗っていたとか、ライトの点かない自転車に乗っている場合があり得る。
- ・ このようなことから、しっかりとした補償制度、自転車整備士による整備点検も含まれているT Sマーク付きの自転車の方が安心して使用できる。
- ・ 自転車の交通事故というのは決して遠い世界の出来事ではなく、本当に身近なところで発生している。いざという時、保険に加入していないと多大な損害賠償を請求されたりするなど大変な事になってしまうということを理解していただき、保険を選んでもらいたい。

○1-2 地域における交通安全教育

(福島県老人クラブ連合会)

- ・ 80歳以上の方は、今まで自転車に乗るときヘルメットを被っておらず、今日から被りましょうと案内をしてもなかなか変えるのは難しい。
- ・ 例えば自転車のシミュレーターを通して、実際の危険を認識してもらうのが良いのではないかと感じる。

○4-1 自転車保険への加入に関する情報提供、加入確認

(福島県高等学校P T A連合会)

- 保険もなかなか周知する機会は意外となく、もう少し組織的に取り組んでいただく必要がある。
- 高校生は、賠償責任補償保険は、県立学校全部で85%は団体加入している。そのほかに同じくPTAで高校生総合補償制度という任意保険を運営しており、おそらく9割の生徒は何らかの保険に加入している。
- 様々な制度に四重五重に加入してしまっているというパターンも実際はあるだろう。
- 高校ではオリエンテーションにおいて、団体で加入する保険の説明を行っており、家庭で加入する任意保険の加入率は下がってきている。
- 保険の仕組み等を理解してもらおう取組が必要と感じている。